

## アコと人生…この人にインタビュー《第13回》「和田欣也さん」

今回は、千葉アコーディオンサークルに所属の「和田欣也」さんを紹介いたします。関東アコから実行委員の池田氏と筆者の二人で訪ねました。7月6日（金）12時30分「千葉」駅さごう前で待ち合わせをし、喫茶店にて千葉アコとの出会いや音楽と人生について語っていただきました。

今回は、三人で話していたので、対談風にまとめてみました。（O：筆者、W：和田氏、I：池田氏）

**(O)** 今日には楽しみにしていましたのでよろしくお願ひします。

早速ですが、生まれはどちらでしょうか。

**(W)** 昭和21年12月宮崎県延岡市で生まれて、高校卒業まで九州で育ちました。地元には旭化成の工場があり、戦時中は爆弾を作っていたため南九州でも延岡だけ空襲に会い、親達は逃げ回っていたと聞いています。

勉強は嫌いだったけど、親が大学は何処でもいいから東京へ行けと、「じゃ行ってやるよ」そんな感じで東京へ出て来ました。そのとき親が言った言葉は「4年間日本の中心を視て来い、就職したら何処行くかわかんないからとにかく日本の中心で遊んで来い」と“あぁいい言葉だなあ”と思った。自分の子どもにはとても言えません、今になって凄いい言葉だなあと思います。

**(O)** アコーディオンに出会うのは東京へ出てきてからですか。

**(W)** 15歳離れた兄が地元でタンゴバンドをやっていてアコーディオンを弾いていたので家に楽器がありました。高校2年の頃兄が使っていた楽器を見つけて3年まで弾いていました。東京に出てきてからは、たまに実家に帰ったとき弾く位でした。

誰に教わる訳でもないし、「F」の曲だったらそこを「D」にして一生懸命追っかけ追っかけやっていました。“#”だったり、“b”だったりしたらそのラインの音を半音上げたり下げたりすればいいんだなって解ってからすごく面白くなりました。

最初に弾いた曲が「ベサメ ムーチョ」なんです。これ（人差し指）1本でレ、レ、レ、レ、ミ、ファ、ラって、もう減茶苦茶ですよ。（笑）ある程度慣れてきて、鍵盤は押さえるだけでペローで弾くもんだなって解りました。空気の流れて音が出て曲を作るんだなって思った時にリードが“絵筆”に思えたんです。リードが絵筆で、

心のキャンバスに絵を描いているんだなあ。それで、何回弾いても変わらなくなった時が「絵」が仕上がった時と、そう思ったんですね。

今は、自分が描く絵を弾いている時に、それと同じことを聴く人に感じてもらえたらというのが願望ですよ。

歌詞のある曲でしたら、一生懸命自分なりの物語を作ります。だから、譜面ではフォルテだけど自分はピアノシモだっていうことが一杯あるんです。自分で物語を作り“ユーチューブ”で聴いてみると「あつ、こんなに違うんだ、少し合わせようか」ってなります。自分なりに1回やってみてっていうのが習ってないものの強みですよ。

**(O)** 大学では、サークル等に入らなかったんですか

**(W)** 大学にタンゴバンドは無く、クラシックがあったんです。で、「アコーディオンですけど出来ますか」って聞いたら、持っていますかと聞かれ、「持っていない」と答えたら、以前やった人がいるから1回来てください葉書を出しますからと言われて待っていたら、日にちの過ぎた葉書が届いたり入りませんでした。（笑）

東京に出てきてアコーディオンが欲しくて、神田の楽器店のガラス窓に顔くっつけて見ていました。そんな風に年月が過ぎ、45歳の時、兄に「ホーナーの“モリノ”を売りたいという人がいる」と言われたんです。それじゃあ買って買いました。高校卒業して45までですから結構間が空いてしまいましたけど、それからもう1回やってみようかなあと思って始めました。

商売柄（自動車のリースや、荷台を特殊な形に改造する修理などの営業）お客さんの20周年記念だとかがあると、「和田さん来て弾いてくれ」って声を掛けてくれるので、そんな所で1時間くらい弾いたこともあります。

一番鍛えられたのは“アコーディオン喫茶カルフル”（「せせらぎ 木漏れ日 そよふく風」で検索できま

す)ですね。あそこで弾くと度胸が付きますよね。目の前にプロのアコーディオン奏者が座っているんですから。

**(O)** 普段どんな練習をしていたんですか

**(W)** 習う機会も無く、1人で弾いていたから、初見で弾けるように、歌謡曲などは曲集の何処でもいいからいきなりぱっと開いて、知らない曲でも曲になるかどうか、そういうことばかりやっていました。

アコーディオンを買う45歳までの間は、好きなタンゴばかり聞いていました。ただ、心の中で、頭の中で自分で弾いている積りで、歌詞があれば1番と2番と3番に合わせて、ここは本当に押し殺したように弾くんだろうな、とか想像して、それが絵になるんです。

**(I)**、**(O)** へえー、すごいなあ

**(Y)** 好きだったんでしょうね。ただ、私のタンゴは、ピアソラじゃなくて「ファン・ダリエンソ」、「カルロス・ディ・サルリ」、「アニバル・トロイロ」などの楽団の時代ですから。

**(I)** そうか、僕も昔から好きでね。和田さんにはタンゴがバックボーンに有ったんだね。

**(O)** 千葉アコーディオンサークルに入るきっかけになったのはどんなことですか。

**(W)** やっぱ1人でやっているリズムがアバウトになりますから、他人と合わせたいなと思ってインターネットでリンクして行って、その時船橋にタンゴバンドサークルみたいなのがあったので、どうしようかなと思ったんですけど、バンドネオンは弾けないと思いましたから、アコーディオンの方に行ってみようって2年前にメールしました。そこで1曲弾いてみてって言われて「奥様お手をどうぞ」を弾いたのが千葉アコサークルとの出会いです。

今18名ですけど、休会の方がいますから全部で21名です。素晴らしい仲間、アコーディオンでも楽しいし、飲んでも楽しいし、本当に楽しい仲間です。良かったと思っています。

私は小指が動かないんですよ。習っていないから、だから4本で弾いているんです。ボタンアコやってみようと思ったって、親指でボディー押さえると残りの指は3本だから弾けないんですよ。恥ずかしい話ですけど教則本見たわけじゃないですからデミニッシュコードは殆ど無視しています。ですから“対談”なんて止めてもらいたいですよ。(笑)でも不自由は感じません。

**(I)** そういう人いますよ。僕が知っている長野の友達にも目が不自由で指は3本(親指、人差し指、中指)で

弾く人がいます。そういう人って基本的に感性で弾くんだよね、テクニックを駆使しながら感性で弾くので、音にその人の感情とか色々なものが出てくる。そういう弾き方をするんだよね。

**(O)** どんなアコーディオンを使っているんですか

**(W)** 今一番弾くのは、ビクトリアの「ネオルネッサンス」(41鍵、120ベース、MMMML、11、2キロ)ですけど、持っている楽器の中では軽いです。

一番最初に買ったのは先ほど言った45歳の時の「モリノ」、嬉しくて嬉しくて夜11時ぐらいまで弾いたから、家内に「いい加減にしてよ」って怒られました。

中古だったけど20万円ぐらいしました。20年前ですけど、中古でも通常60万円ぐらいしていましたから。

**(I)** それは本当にお買い得でしたね。

話を聞いていてそうなんだと思うのは、和田さんは「移動ド」でメロディーをパッと言える。そういう感覚を持っているの、だから移調なんか楽なの、どんな調でもすぐ弾ける感覚をすごく持っているの、強みだよな。色んな曲を弾く時にそういう感覚を持っていることってすごく大事なんですよ。

**(W)** 転調は難しいですね。上手く行かないですね。

**(I)** そう言う風に「移動ド」で言えるっていうことは、違う調になったときにその調でド、レ、ミ、ファ、を弾けばいい訳だから。

**(W)** そうですね、結構頭の中にド、レ、ミ、ファが出てきますから。

**(I)** 話の途中で良く絵が出てくるけど、絵画がお好きでな



んですか。(対談中の和田氏:写真左と池田氏:右)

**(W)** 好きと言うよりか、自分の中で、その曲に対する絵なんです。

**(I)** そうか、そういうことなんだ。

**(W)** 弾いている間はずーっと動画です。ずーっと仕上げていって最後にその世界が完成する。最初リードって絵筆だなあと思った時からずーっとそのように弾いています。

**(I)** へえー、そういう風に音楽を捉える人って面白いね。

**(W)** 曲は物語ですから。御喜美江さんの言葉ですごく好きなのがあって、それは、同じメロディーを2回繰り返

返している、その時に同じな訳がない。例えば、1 回目は朝だったら次は昼かも知れない、1 年後かも知れない。その時間の流れというのがあるんだから、そのことを考えて弾けっというのが心に残っています。そうだなあと思いました。

(I) それは絶対そうですよ。100 パーセントそうですよ。1 回出てきてもう 1 回出てきたときは、そこは 2 回目の格好をしていないとつまらない。

(O) タンゴがもともになっている様だけど、今どんな曲を練習しているんですか。

(W) タンゴは絶対続けて行きたいですね。やっぱり自分がこの楽器を好きになり音楽を好きになった基本ですから。弾きたいとか、感情を出しやすいし、タンゴでなくても「城ヶ島の雨」とか、あれを感情豊かに、例えば、あの中で船が出て行く、その船が帰ってくるか来ないか、帰って来ないと決めてメロディーを弾いてみたけど。実際は全然逆だったし、ああ、この人は船が帰ってくると思って譜面作ったんだなあと思ったり、そんな風に感情だけでっという形で弾いていますね。

(O) 千葉アコでは合奏もしているから、俺はここはこうなんだけどなあなんて思うことがあるんじゃないですか。

(W) ありますよ。一番得意な分野だよなと思いがら合奏やっています。(笑)、だから入った頃は結構音が大きかったですね。自分の音を大きく出して、とにかく相手に聴こえるようにしましたけど、今は溶け込むようになりました。そういうことだと思います。自分の中で溶け込んでっというように。

最初はね、合わせるのが面白くて合わせて、その内に何か違くなって思っ、今は慣れてきて仲良く仲良くなってっやっています。



(愛用のネオルネッサンスで練習中の和田氏) ↑

(O) 和田さんはフルタイムだし、どういうところで時間を作って練習しているのか不思議なんだけど、練習法を知りたいですね。

(W) アコーディオンを弾いての練習っというのは結構短いんですよ。車を運転している時、頭の中でぐるぐる

っ、そのとき気が付くのが多いんです。例えば、この曲やっていて下げが面白くないなあ、あっ、アルペジオでちよっど音を拾ってみようとか。ですから、「和田さんちよっど此れやってみてください」っって言われたとき「ちよっど待ってください、1 日頭の中で考えますから」ってそうすると出来るんですよ。それから音にする。逆に音から入ると駄目なんですね。だから一週間弾かないことでもざらですよ、ですけど、今はちよっど帰るのが早いですから(午後6時半頃帰る) そうすると30分くらい音を出してみたりしますが、自分の好きな曲を最初に1曲だけやって、その後はみんなと一緒にやるアンサンブルのを1回くらいやっておくっ(笑)

(O) 練習は毎週あるんですか

(W) 月に3回です(第1、第2、第3土曜日)それで、午後1時から5時まで。30分休憩が入りますが結構長いですよ。

午後1時っ、仕事をしていると大変なんですよ、食事を入れると11時にはもう動き始めなきゃいけないですから。1人だけ我がまま言えないですからみんなと一緒にやっています。

(I) 1度練習見に行きたいなあ。

(W) 是非いらしてくださいよ。講師の森先生は、本当に優しく教えますし、褒めながらね。悪い所があっても、あっ、ここが良かったですねっいいながらやりますよ。

(O) 最後に、和田さんは多少のことなら楽器の修理もなさると聞きましたが、構造に興味をお持ちなんですか。

(W) 高校時代から好きだったです。ちよっど曲げすぎてスリッパと鍵盤の間のフレームが折れたことが有ります。宮崎県の田舎のことだから何も無かった。知り合いの所で溶接してもらっ(笑)、でもその頃からなんでこの音が出るのかなって理屈を知りたかったんですね。だから分解してリードを覗いて見たりして、リードって鉛筆みたいだなあっって思っったんですね。

最初はどっやるとか迷いましたよ。怖かったです、でも見ていると中のリードも裏から突き上げるとトーンと出てるんですよ。でできたのを削ってまた戻してやる。

サークルの人に頼まれたのは、ビリビリ音が取れなくて、試みに蜜ロウを切ってリードをひっくり返して付け直してみたら直ったこともありました。(おわり)

お忙しい中貴重なお話を有難うございました。とても楽しく取材が出来ました。《文責：乙津》